

共同運営部門：心臓・血管センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
副病院長兼手術センター長 兼心臓・血管センター長 兼患者サポートセンター長 兼臨床工学・技術センター長 兼国際センター長	船津 俊宏
循環器内科主任部長 兼心臓・血管センター副センター長 兼リハビリテーション副センター長 兼医療安全管理副室長	習田 龍
心臓血管外科部長兼 ICU/CCU センター長	良本 政章

＜関連部署＞

部署名	部署名
循環器内科	心臓血管外科
7 階山側病棟, ICU/CCU 病棟	臨床工学・技術部門臨床工学
地域医療連携室	薬剤部門
リハビリテーションセンター	

＜特色と概要＞

2002年に開設となった心臓センターは、2022年より名称を心臓・血管センターとした。開設当初より循環器内科、心臓血管外科の両診療科によってこれを構成し、当院における循環器系疾患の診療にあたってきた。特に併設の泉州救命救急センターに搬送される急性冠症候群（不安定狭心症、急性心筋梗塞）や急性大動脈症候群（大動脈解離、大動脈瘤破裂）、重症心不全や重症不整脈などに対しては、当直医を常駐し24時間体制で対応している。またその両診療科に加え、看護師（病棟・ICU看護師、慢性心不全看護認定看護師）、臨床工学技士、検査技師、リハビリテーション技師、薬剤師、MSWなどの多職種が参加、連携して、初診から退院、あるいは退院後の外来フォローに至るまで、包括的かつ合理的にケアにあたっている。

院内多職種によるりんくうICU/CCUラウンドを平日毎朝行っていることに加え、心臓・血管センター合同カンファレンスを毎週水曜日朝に開催し、問題症例や多職種連携を中心に話し合いを積極的におこなっている。

トピックとしては、2025年1月より開始した経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）の症例数は、19例とまだそう多くないが、年度後半には右肩上がりに増加傾向にあり、来年度は症例増加が期待される。

＜実績＞

両診療科の臨床実績（2025/1/1～2025/12/31）は、循環器内科では心臓カテーテル検査744件、冠動脈カテーテル治療324件、ペースメーカー植込み76件、カテーテルアブレーション297件、下肢動脈カテーテル治療64件などで

あり、カテーテルアブレーションは顕著に増加した。心臓血管外科は手術室手術213件とここ数年で最多となり、うち開心術は112例（TAVI含む）であった。内訳は冠動脈疾患15例、弁膜症60例、胸部大動脈瘤37例、腹部大動脈瘤22例、末梢血管30例などであった。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

循環器内科はカテーテルアブレーション件数の増加をさらに達成したが、デバイスの進歩による再狭窄の減少が関与していると思われる冠動脈カテーテル治療件数の減少傾向は継続した。心臓血管外科とともに、近隣の医療施設を積極的に訪問するなどの集患に努めていきたい。

TAVIは特に年度後半から症例数が増加傾向にあり、近隣地域への宣伝活動が徐々に成果を上げていると思われる。来年度もさらに発展させ治療実績を伸ばしていきたい。

反省点としては、りんくうICU/CCUにおいて、在室患者の重症度や後方病棟である7階山側病棟の空床状況などのため空きベッドが確保できず、循環器救急受け入れの停止が一定時間発生したことである。引き続き来年度も近、隣の支援病院と連携し、急性期治療を終えた、あるいは希望されない循環器疾患患者の早期転院を実践し、効率的なベッド運用と循環器救急受け入れ停止時間の削減をおこなっていききたい。